

現大綱の取組状況

各基本目標に対する主な取組状況

目標1 神奈川から、科学技術による産業・経済の一層の発展を促す

施策の 基本的な方向

- 産業・経済の一層の発展を促す科学技術活動の展開
 - ・知的創造活動の展開と産学公連携による共同研究の推進
 - ・中小企業支援などによる研究成果の産業への活用
 - ・市場展開を見据えた産業支援

工業・生命科学・環境・エネルギーなど

農・畜・水産業

共同研究推進

産学公連携による共同研究、重点研究目標に沿った実用化レベルの研究

ライフサイエンス分野の研究・ネットワークの構築

特区を活用した研究開発・実用化支援

研究成果 の活用

神奈川版オープンイノベーションの推進

安定生産技術の開発

企業の知財活動の支援

野菜などの新品種の開発

産業支援

試験計測・分析

国際評価技術センター機能の構築

今後の課題 と方向性

- ・イノベーション創出のための新たな仕組みの創造
 - 産技CとKASTを統合・独法化し、企業の技術支援を強化
- ・新しい高付加価値産業の形成
 - 成長産業(最先端医療、未病、生活支援ロボット関連産業)の創出・育成

目標2 生活の質の向上を実感できるように、科学技術を社会に活用する

施策の 基本的な方向

生活の質の向上を実感できる科学技術活動の展開

- ・神奈川からのエネルギー政策の転換に向けた研究・技術の活用
- ・防災及び放射能に関する研究・モニタリング活動の推進
- ・超高齢社会に寄与する研究・モニタリング活動の推進
- ・自然・生活環境の保全など県民生活につなげる活動の推進

エネルギー

再生可能エネルギー導入に向けた共同研究開発の推進

薄膜太陽電池の評価法・高効率燃料電池の研究開発

防災・放射能

火山や地震の観測やメカニズムの研究

放射能のモニタリング活動

超高齢社会

がんや血小板作製などの医療技術の研究

食品など生活安全の検査・研究、魚肉の新規加工技術の開発

自然・生活 環境

無花粉スギ・ヒノキの実用化研究

PM2.5に関する研究

今後の課題 と方向性

- ・誰もが健康で長生きできる社会の実現への寄与
→これまでに蓄積した「知」や新たに集積された「知」の活用
- ・自然災害や新たな環境問題への対応
→研究やモニタリング活動など正確な情報の把握と発信

目標3 科学技術への理解を促し、科学技術革新を担う人材を輩出する

施策の 基本的な方向

- 科学技術の理解増進と人材の輩出
- ・科学技術に係る活動等の情報発信
 - ・子どもたちへの科学技術の理解増進
 - ・科学技術革新を担う人材の育成

小学校 > 中学校 > 高校 > 大学 > 社会人

情報発信

県試等の活動を紹介するかながわ科学技術フェア、箱根山の活動状況の発信

サイエンスサマー、研究者派遣

理解増進

青少年のためのロボフェスタ
科学実験・ものづくり工作体験

科学体験指導者の育成

科学の甲子園、サイエンスフェア

人材育成

SSH

研究者・技術者
向け講座

今後の課題 と方向性

- ・子どもたちへの科学技術に対する興味・関心のさらなる喚起
→育成した体験指導者活用などによる体験機会の増加、女子への新たな施策の検討
- ・技術革新から一歩進んだイノベーション創出を担う人材育成
→県立高校における理数教育の強化、企業のニーズに沿った産業人材の育成